めざましい「生徒の活躍」

南風原高等学校

平成25年度の県高校総体では本校各部活動が健闘し、７月に開催された全国高等学校総合体育大会には、本校から男子新体操、卓球、陸上、レスリング、ソフトテニスの５競技に９名の生徒が県代表として出場しました。

文化系部活動においても、郷土芸能部は今年から開催されたソロコンテストにおいて、平良順一郎君が最優秀賞に輝き、７月に長崎県で開催された全国高等学校総合文化祭での公演でも持てる力を十分に発揮してくれました。

（本校の平成16年以降の部活動の実績）

１．平成16年度

○県高校総体　優勝
　レスリング50kg級：中山辰政　55kg級：松本茂
　　84kg級：棚原雅巳
　ウェイトリフティング53kg級：運天力也
　バドミントン　ダブルス：伊是名美穂・仲里郁恵

○全国高校総体　優勝
　ウェイトリフティング競技　53kg級：運天力也

○県高校新人　優勝
　卓球男子団体・男子シングルス：友寄隆太
　ウェイトリフティング男子105kg級：中村慎喜
　レスリング男子60kg級：當間充

２．平成17年度

○県高校総体　優勝
　卓球男子団体・男子シングルス：友寄隆太
　ウェイトリフティング男子94kg級：津波古航太
　ウェイトリフティング女子団体

○国民体育大会　優勝
　ウェイトリフティング　ジャーク 平良一悦

○県高校新人　優勝
　南風原高校サッカー部
　卓球男子団体、男子ダブルス　友寄隆太・山形貴紀
　重量挙げ　105kg超級：中村槙喜
　女子63kg超級：平奈美子

○全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会優勝
　105kg級：中村慎喜　女子63kg級：宮平奈美子

３．平成18年度

○全九州高等学校体育大会ウェイトリフティング優勝
　男子105kg超級：中村慎喜

○全国ウェイトリフティング高校女子選手権優勝
　69kg級　宮平奈美子

○全九州卓球選手権県予選シングルス
　優勝　太田耕平

○全日本ジュニアウェイトリフティング選手権大会優勝
　女子63kg級：宮平奈美子
　　（スナッチトータルで日本高校記録）
　男子105kg超級：中村慎喜

４．平成19年度

○九州高校総体　出場　ボクシング：大城聖都
　新体操競技：女子団体
　陸上競技：高良美香・山城祐介
　レスリング：50kg級：大城真
　　55kg級：友寄隆史・國吉真吾
　　120kg級：中村和真

○全国高等学校総合体育大会　出場
　ウェイトリフティング女子53kg級　金子梨乃
　　63kg級　宮城諒子

５．平成20年度

○九州ジュニアテニス選手権大会（16歳以下）
　優勝　金城充

６．平成21年度

○県高校総体　優勝　男子棒高跳：山城祐介

○全国高校サッカー選手権大会沖縄県予選優勝
　全国大会出場　　南風原高校サッカー部

○県高校新人　優勝　男子新体操：大濱康紀
　ソフトテニス団体、男子ダブルス：吉浜真・新垣智大

７．平成22年度

○県高校総体　優勝　陸上男子槍投げ　吉田逸希
　男子新体操　大濱康紀

８．平成23年度

○県高校総体　優勝
　新体操：喜瀬智成　　南風原高校サッカー部

○県高校新人　優勝
　男子ハンマー投げ：大城良樹
　男子新体操：崎原佑史

９．平成24年度

○県高校総体　優勝
　ボクシング　ライトウェルター級：上原拓哉
　陸上競技　女子７種競技：金城葉奈
　男子新体操団体

○県高校新人　優勝　男子棒高跳び：内間未羅之
　レスリング　60kg級：佐々木冬磨
　男子新体操　団体

10．平成25年度

○県高校総体　優勝
　レスリング60kg級：佐々木冬磨
　男子新体操団体　陸上男子棒高跳び：内間未羅之
　卓球女子ダブルス：大城桃子・大城愛乃

文武両道を実践して躍進する本校

普天間高等学校

本校は、創立以来「質実剛健」「進取創造」の校訓に基づき、文武両道の実践を通して、知・徳・体の調和の取れた人材の育成を目指して教育活動を行い今年創立66周年を迎えました。

生徒達は、学習に部活動に学校行事に全力で取り組み有意義な高校生活を過ごしています。県高校総体男女総合成績は、平成23年度３位、24年度２位、25年度は４位（男子総合３位）と年々実績をあげています。一方国公立大学合格者は、平成22年度75名、23年度86名、24年度84名となっており、文字通り文武両道を実践している学校です。

平成16年度から平成25年度までの県高校総合体育大会、新人大会の優勝種目等は以下の通りです。

平成16年度

県高校総体(男女総合10位) ボクシングバンタム級
県高校新人大会　卓球女子ダブルス

平成17年度

県高校総体（男女総合11位）
県高校新人大会　卓球男子シングルス、フェンシング女子個人、水泳男子２種目

平成18年度

高校総体(男女総合９位) 卓球男子・女子団体、男子水泳２種目
九州高校総体男子平泳ぎ２位
県高校新人大会　ソフトボール男子、卓球男子団体・シングルス・ダブルス、陸上女子走高跳、ホクシングフライ級、水泳男子２種目

平成19年度

県高校総体（男女総合7位）卓球男子団体・シングルス・ダブルス、水泳男子2種目、陸上女子走高跳、九州高校総体水泳男子200m平泳ぎ２位
県高校新人体育大会　空手道女子個人組手、水泳男子２種目、陸上男子八種競技

平成20年度

県高校総体（男女総合８位）卓球女子団体・シングルス・ダブルス 、陸上男子八種競技、水泳男子２種目、女子新体操個人総合
県高校新人体育大会　卓球男子団体・女子団体・女子ダブルス、女子バスケットボール、新体操個人総合、陸上男子400m・八種競技

平成21年度

県高校総体（男女総合４位）卓球女子団体・ダブルス・シングルス、新体操団体・個人総合、バスケットボール女子、陸上男子400m、水泳男子１種目、県高校新人体育大会、卓球男子団体・シングルス・ダブルス、卓球女子団体・シングルス・ダフルス、新体操女子団体・個人、陸上女子走幅跳、水泳男子１種目、全九州高校空手道新人大会男子個人組手３位

平成22年度

県高校総体（男女総合４位）卓球女子団体・男女シングルス・男女ダブルス、新体操女子団体、水泳男子１種目、水泳女子４種目、全九州高校総体水泳女子400m個人メドレー２位、卓球女子ダブルス３位、県高校新人大会、水泳男子１種目・女子３種目、卓球男子団体・男女シングルス・男女タブルス、空手男子団体･個人組手、全九州新人大会水泳２種目、空手団体組手３位・個人組手３位、卓球男子学校対抗３位

平成23年度

県高校総体（男女総合３位）卓球男女団体・シングルス・ダブルス６種目、空手男子団体組手・個人組手、テニス女子ダブルス、水泳男子１種目・女子２種目、全九州高校総体　空手道男子団体組手３位、水泳、女子400m個人メドレー２位、全国高校総体水泳女子400m個人メドレー７位、全国空手道選手権大会男子個人組手ベスト16、県高校新人大会　卓球男子団体・シングルス、卓球女子団体・シングルス・ダブルス、陸上女子走高跳、水泳、男子２種目・女子５種目、空手道男子個人組手、新体操団体・個人総合

平成24年度

県高校総体（男女総合２位）卓球男子団体・ダブルス、女子団体・シングルス・ダブルス、空手道男子個人、組手、水泳男子３種目・女子５種目、陸上女子走高跳、全九州高校総体　水泳女子200m・400m個人メドレー優勝、空手道男子個人組手２位、全国高校総体　水泳女子400m個人メドレー３位、空手道男子個人組手ベスト16、県高校新人体育大会　卓球男子団体・シングルス・ダブルス、水泳男子２種目・女子２種目、自転車２種目、新体操個人総合、陸上女子走高跳

平成25年度

県高校総体（男女総合４位）卓球男子団体。シングルス・ダブルス､水泳男子２種目・女子１種目、陸上女子七種競技、空手個人組手、全九州高校陸上南九州女子走高跳１位

誠・愛・勇の校訓のもと

辺土名高等学校

本校はノグチゲラやヤンバルクイナで知られる沖縄島北部にある創立68年の伝統校である。近年の少子化で、平成19年度以後は各学年普通科１クラス、環境科１クラスの小規模校となるが、地域と連携し文武両道に励む生徒の育成に努めている。平成13年度に設置された全国でも珍しい環境科は地区外からの入学者も多く、海・山・川に囲まれた自然豊かな環境のもとで、「やんばる」の豊かな自然環境や生物を対象とした体験型学習や課題研究に取組んでおり、課題研究の成果は県内外の科学作品展等で高い評価を受けている。

部活動でも多くの実績を重ねてきたが、昭和53年全国総体で「辺土名旋風」と称された男子バスケット部の３位入賞は今でも語りぐさとなっている。当時は空手道部も全国大会で活躍し、駅伝部は全国大会県代表となるなど活気のある時代でもあった。

文化系の部活動でも放送と自然科学分野での活躍が目覚ましく、放送部は７年連続で全国大会へ派遣され、平成22年度にアナウンス部門で全国準優勝、23年度にはラジオドキュメント部門で全国優勝を成し遂げた。またサイエンス部は九州大会へ６年連続、全国高校総合文化祭へも２年連続で県代表として派遣されるなど、文武両道に励む生徒の育成に努めている。

平成16年度以後の10年間では、まず平成18年度に復活したボート部の活躍が特筆される。平成19年度に女子ダブルスカル県代表（全国総体出場）平成20年九州高校新人大会で女子ダブルスカル準決勝進出、平成21年には男子シングルスカルの菅原祐介と女子コドルプルで全国総体参加、菅原はその後平成22年度の九州大会でシングルスカルで優勝、その後の美ら島総体で県勢初の８位入賞を果たした。また女子シングルスカルの宮平愛も九州大会で優勝、美ら島総体では決勝進出と活躍した。平成23年は男子シングルスカルの知花礼、女子シングルスカルの山城ひらきが九州で準決勝進出、山城は全国でも準々決勝進出と活躍した。平成24年度は県大会で初の男女総合優勝、U－19世界選手権日本代表選考会女子シングルスカルで比嘉靖菜が準決勝進出、平良里佳が九州大会で２位、国体九州ブロック大会で４位入賞するなど目覚ましい活躍が見られた。今年度も男子ダブルスカル（新垣直正・田口惣組）女子シングルスカル前田彩花が県総体で優勝し九州大会へ参加、前田は九州大会で準決勝進出を果たした。

また重量挙げ競技での活躍も素晴らしく、平成16年度の九州選抜大会で男子94kg級宮平雅士、女子75kg級平良姿野が優勝、宮平はその年の全国選抜で優勝、国体では105kg級で準優勝した。平成18年度は前田陽章が105kg級で全国・九州で２位となる。平成20年には男子77kg級で金城成人が九州選抜大会で優勝、全国選抜でも活躍した。平成22年度は女子63kg級で島袋美沙紀が九州･全国で入賞、平成23･24年度には島袋晃平が105kg級で九州２位、全国８位入賞と活躍した。

陸上競技では平成18・19年度の秋期陸上大会で濱元貴裕が男子走り幅跳びで２年連続の優勝をなしとげた。平成20年には國場秀也が同種目で2位となる。平成23年県総体では男子走り高跳びで玉城大地が５位入賞し九州大会へ参加した。平成24年度新人陸上競技大会で山田義尚が男子1500mで優勝し九州大会へ参加、その年の都道府県対抗駅伝の選手として選考された。山田義尚は平成24年度の県総体では1500m及び5000mで入賞し九州大会へ県代表として派遣された。

ソフトテニスでは平成18年度の九州高校新人大会で玉城聖道・田中成樹組が県代表として出場して以来、県代表としての活躍はないが、平成24年度に女子ソフトテニスが復活し、県高校総体で２回戦進出、平成25年度は個人でベスト16に入るなど着実に力をつけており来年度が楽しみである。

また男子バスケット部も小規模校故の部員不足でこの数年は厳しい状況が続いているが、平成22年度は小橋川杯の選手権大会で久しぶりのベスト16、本年度は中北部支部新人大会の３部で優勝するなど頑張っているところである。

この数年の定員割れで、部活動の種目数は限られてきたが､各部が「小規模校でもキラリと光る活躍」で毎年県代表を輩出していることは喜ばしいことである。毎年の県高校総体や野球部の推戴式では下記の校訓を全校生徒･職員で声高らかに斉唱し送り出すのが本校の伝統である。

誠を以て己を持し（誠実な姿勢で臨もう）
愛を以て人に接し（思いやりとチームプレー）
勇を以て事に当たれ（積極的な全力プレー）

本校の体育系部活動の足跡

北山高等学校

本校は、昭和23年田井等高等学校（現名護高校）から分離独立して創立された。創立当初は、職員９名、生徒147名、普通科のみであったが、昭和33年に家政科、昭和38年には商業科が設置された。生徒数も最大800名に達するほどであった。

しかし、昭和53年の学区制導入後は新設校の設置や学科の再編成による統廃合、地域の過疎化に伴い生徒数が減少していった。昭和56年に家政科が廃科となり、昭和59年に商業科も廃科となった。以降、しばらくは普通科のみの一学年３クラスという最小規模の高校となった。平成４年に本島北部一円を校区とする理数科が２クラス設置され、進学を重視する体制が整えられたが、少子化の影響で平成17年度から一学年普通科２クラス、理数科1クラスとなっている。

学校規模は小さいものの、「自主自律」「友愛協同」の校訓を全面に掲げ魅力ある学校づくりに邁進しているところである。

本校66年の歴史の中で、体育系部活動の活躍はめざましいものがあり、高体連の歴史に輝かしい実績を残している。中でも昭和28年の高体連主催第１回全島陸上競技大会では、男子優勝、女子優勝、総合優勝を果たして北山高校の名を県下に知らしめることになった。さらに、第１回全島高校駅伝競走大会でも優勝し、県代表として全国大会に初出場した。昭和29年には全島高校球技大会で排球女子が優勝した。昭和30年、排球女子が２連覇を飾った。昭和32年は排球女子と卓球女子が優勝した。昭和33年は籠球女子が優勝している。こうした活躍ぶりから昭和28年から33年にかけてを北山高校の第１期黄金時代と呼んでいる。ユニフォームの赤鷲のマークがグランド狭しと駆けまわるさまは圧巻で全島に北山強しと強烈に印象づけたといわれる。

次の第２期黄金時代は昭和54年から58年にかけてである。昭和54年県高校総体で軟式庭球女子が団体優勝、九州大会で３位となり、全国大会に出場した。昭和55年には軟式庭球男子が団体優勝、女子も２連覇を果たし、ともに全国大会へ出場した。昭和56年は高校駅伝競走大会で27年ぶりに優勝し都大路を初めて走った。駅伝部は翌年も優勝し全国大会へ出場した。このときの全国30位という成績は現在でも本県高校男子のベスト順位である。秋季陸上では女子400m（比嘉昭子）１位、1500m障害（仲村司）１位、5000m（嘉陽宗真）が１位となった。その昭和57年には軟式庭球男子も県総体で優勝し、北山の名を高めた。

昭和60年には県総体陸上で三輪直美が100m、200m、400mRで１位となり女子の総合優勝を勝ち取った。男子では久田浩也が100mで１位となった。本校には県内唯一のホッケー部があるが昭和62年の海邦国体では男子がベスト４、女子がベスト８に名を残した。

平成に入ると、中南部地区に体育学科や体育コースが設置され、陸上競技が長く低迷してしまう。平成20年までに優勝を勝ち取った種目は、平成9年の男子400m（仲村武志）、平成16年の棒高跳び（仲嶺真道）、やり投げ（山城圭介）、平成17年の棒高跳び（仲嶺真人）、400mH（玉城健次）、やり投げ（山城圭介）、3000m障害（渡久地翔）、平成18年度では3000m障害（金城聡大）となっている。伝統的に力のあった駅伝部も県大会で上位入賞はするもののなかなか勝てずにいたが、平成17年、平成18年に優勝して全国大会へ出場した。

平成24年には県高校駅伝大会で初の男女優勝を成し遂げ、全国大会へアベック出場した。駅伝部の選手は陸上競技でも3000m障害（関口海月）、1500m（仲井真エンドリアみどり）で1位となった。なかでも3000m障害の関口海月は９分06秒の県高校新記録で南九州大会も制したことは特筆に値する。

平成24年度男女駅伝部アベック優勝・全国大会派遣

伝統に輝く北部農林高校

北部農林高等学校

県立北部農林高等学校は、明治35年４月に甲種国頭久間切島組合立農学校として名護に設立され、明治44年４月沖縄県立農学校に昇格し、大正５年に嘉手納へ移転、沖縄県立農林高校と改称して本県産業人の育成に努め、産業経済の発展に貢献する。

しかし、昭和20年８月の終戦とともに廃校になる。戦後は名護城趾のふもと幸地又に元県立農林学校の在校生83人を迎え、昭和21年１月北部農林高等学校として再出発、昭和24年２月に現在地の宇茂佐へ移転して今日に至る。

本校の教育目標は、創造性豊かな人間の形成と自主的精神を培い農業教育を通して広い視野をもった実践力に富む心身共に健康な産業人の育成にある。

平成16年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体優勝（15回目）個人優勝４階級
陸上競技　800m　2位　5000m競歩　２位
ＮＴＴ杯ソフトテニス大会　男子個人ベスト８
県高等学校新人大会
陸上競技　5000m競歩　優勝
バレーボール競技　男子　ベスト８
レスリング競技　団体優勝（15連覇）個人優勝４階級
ソフトテニス競技　団体　ベスト４
ボクシング競技　モスキート級　優勝
平成17年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体優勝（16回目）個人優勝５階級
陸上競技　5000m競歩　優勝
ソフトテニス競技　団体　ベスト８
ＮＴＴ杯ソフトテニス大会　男子個人優勝
県高等学校新人大会
陸上競技　5000m競歩　優勝
ソフトテニス競技　団体ベスト４　個人　優勝
レスリング競技　団体優勝（16連覇）個人優勝４階級
全九州新人大会ソフトテニス大会　　出場
全九州新人大会レスリング競技大会　　出場
平成18年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体優勝（17回目）個人優勝３階級
ソフトテニス競技　団体　３位　個人　３位
陸上競技　5000m競歩　優勝
第18回ビーチバレーボール沖縄2006　準優勝
第59回全九州高校ソフトテニス競技　出場
県高等学校新人大会
空手道競技　個人組み手　ベスト4
レスリング競技　団体優勝（17回目）個人優勝４階級
平成19年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体優勝（18回目）個人優勝３階級
相撲競技　団体３位
男子バレーボール競技　ベスト８
県高等学校新人大会
レスリング競技　団体優勝（18回目）個人優勝３階級
相撲競技　団体２位　個人　軽量級　優勝
男子バレーボール競技　　ベスト８
全九州高校レスリング新人選手権大会　団体　5位
平成20年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体優勝（19回目）個人優勝４階級
相撲競技　団体２位　個人　優勝　２階級
男子バレーボール競技　ベスト8
県高等学校新人大会
レスリング競技　団体優勝（19回目）個人優勝２階級
相撲競技　団体２位　個人　軽量級　優勝
男子バレーボール競技　ベスト8
全九州高校レスリング新人選手権大会　団体　5位
平成21年度　県高等学校体育大会
ＪＯＣ全日本ジュニアレスリング選手権大会、
（全国制覇）47kg級 友寄大輝50kg級 石新一早
相撲競技　団体２位　個人無差別　軽量級　優勝
第21回ビーチバレーボール沖縄　男女優勝
県高等学校新人大会
レスリング競技　団体　２位　個人　優勝　３階級
全九州相撲新人大会　団体ベスト８
平成22年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体２位　個人　優勝１階級
相撲競技　団体２位（美ら島総体出場）
第22回ビーチバレーボール沖縄　男子優勝
中北部支部新人バスケット大会　女子３部優勝
県高等学校新人大会
相撲競技　団体２位　個人　軽量級　優勝
レスリング競技　団体　2位　個人　優勝　２階級
平成23年度　県高等学校体育大会
レスリング競技　団体　2位
撲競技　団体２位　個人　80kg未満優勝 照喜納清貴
第23回ビーチバレーボール沖縄　男子優勝
県高等学校新人大会
相撲競技　団体２位　個人80kg未満優勝
レスリング競技　団体　２位　個人　優勝　２階級
ソフトテニス競技　ダブルス　ベスト８
平成24年度　県高等学校体育大会
相撲競技　団体２位　個人　軽量級優勝
レスリング競技　団体　２位
ラグビー競技　出場
県高等学校新人大会
相撲競技
団体初優勝
個人無差別　優勝　照喜納清貴
レスリング競技
団体　2位
ラグビー競技　出場
九州Ｕ19交流大会選抜
選手（沖縄県代表８名）